

様式第3号（第1項関係）
経理基準

行政視察報告書

令和7年12月26日

市民ネット21 田中 立一
日本共産党 松田 徳彦
渡辺 栄一

- 1 視察議員名 田中立一、松田 徳彦、渡辺 栄一
- 2 視察期間
令和7年11月18日（火）から
令和7年11月20日（木）までの3日間
- 3 視察先
(1) 福島県会津若松市
(2) 宮城県岩沼市
(3) 福島県南相馬市
- 4 視察目的
(1) オンデマンド交通の取り組みについて（会津若松市）
(2) 防災の取組について（岩沼市）
(3) 子育て支援の取り組みについて（南相馬市）
- 5 視察の概要 別紙のとおり



◎調 査 地:福島県会津若松市

市 概 要:福島県西部、磐梯山、猪苗代湖、鶴ヶ城など観光産業に酒・漆器も盛ん
面積 383k m²、人口 109,493 人
近年は I T 関連産業

◎調 査 事 項:地域公共交通の取組について

「デマンド交通 (MYRIDE どこでもバス) の取組」

◎視 察 日 程:令和 7 年 11 月 18 日 13 時半～15 時

◎説明担当者:会津若松市地域づくり課

◎会津若松市「デマンド交通 (MYRIDE どこでもバス) 事業」の概要

【背景・契機】

- ・ 少子高齢化・人口減少 (消滅可能性自治体)

↓

第 7 次総合計画 (バス利用者減少、運転手不足対策)

「スマートシティ会津若松」(交通×ICT)

【目的・目標】

- ・ 快適な暮らしと活力あるまちづくり⇒利便性が高く持続可能な公共交通目指す
- ・ 「地域公共交通計画」(令和 4 年～8 年度)

◎事業概要

- ・ MYRIDE どこでもバス:路線バスとタクシーの中間に位置するサービス
- ・ バーチャルバス停 (仮想バス停) で乗降=AI が最適な運行経路を計算
- ・ 実証期間:2023 年 12 月 1 日～2024 年 2 月 29 日を R 7 年 1 月末延長
- ・ 本格運行:令和 7 年 2 月～、現行同 7 年 10 月～
- ・ 運行方法:運行時間 9～16 時台、アプリ予約と電話予約
運行エリア 465 か所他に大型商業施設、総合病院
車両 14 人乗り 3 台
運賃大人 450 円、子ども 230 円 (エリア外大人 100 円、子ども 50 円増)
- ・ 導入効果:交通空白区域の解消、外出機会・先が増、

◎総括

- ・ ICT 産業の盛んなまちらしく、AI を駆使し、配車アプリ等のデジタル技術で各交通モード及び目的地を束ねる・繋ぐという「まちなか交通の再構築・強化」を目的としているということで、産学官の連携で実証実験を重ね、新しい公共交通を形にして効果を出している。
- ・ 課題として、タクシー事業者等他交通事業者の理解、周知及び利便性の向上、他路線バスも含めたバスネットワークの最適化、採算性の確保等が上げられた。
- ・ 実際我々も試しにアプリで配車予約しようと試みたが、希望の時間に予約できず諦めたように、市民ではないとはいえ、まだ課題解決が必要と感じた。
- ・ 糸魚川市は市域が広く人口少なく、地理も複雑なため導入には多くの課題があるが、デマンド交通はこれからの公共交通に必要な施策であると思う。

◎調 査 地：宮城県岩沼市

◎調 査 事 項：震災からの復旧・復興、防災の取組について

◎視 察 日 程：令和 7 年 11 月 19 日(水) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 10 分

◎説明担当者： 岩沼市総務部危機管理課（担当：高橋利彰課長等）

◎場所：岩沼市議会 議員全員協議会室

- ・宮城県岩沼市は、人口約 43,000 人、面積約 60.45 ㎢、東北における交通の要衝で、仙台市のベッドタウンです。平成 23 年 3 月の東日本大震災では、津波による侵水面積は市域の約 48%、死者 181 人（直接死）、住居被害 5,428 戸という大きな被害を受けました。
- ・復旧・復興はスピード感を重視して取り組みました。3 月 11 日当日から災害 FM 放送による情報発信を市長自らが行いました。3 月 12 日に支援センターを立ち上げました。3 月 14 日には 2 系統のうちの一つの浄水場を復旧させました。5 月 7 日からは復興計画の策定が始まっています。避難所への避難や仮設住宅への入居（4 月 29 日から）は、地区単位で行い、コミュニティの維持を図りました。集団移転についても被災した 6 地区毎の区割りとして、コミュニティを維持しました。6 地区代表者会や住民主体の「まちづくり検討委員会」、自主的活動の「住民協議会」が協力して復興のまちづくりを行いました。
- ・防災・避難計画として多重防御に取り組みました。国による標高 7.2m の海岸防潮堤の建設、市は標高 4～5 m のかさ上げ道路・避難路の建設、震災廃棄物を活用した標高 11m の避難場所にもなる「千年希望の丘」10 基を整備しました。
- ・避難所については、災害ごとには充足し、プライバシーの配慮等はしてきている。課題は福祉避難所、スフィア基準が財政規模の問題から満たしきれていない。
- ・防災 DX については、県の防災アプリ（マイナンバーからの身分証明機能、災害関連情報が通知される）を導入し、4 割が登録し、訓練でも使用している。5 割を目指している。
- ・被災当初はスピードを重視し、復興は市民の声を重視して、被災前のコミュニティを維持し、孤独死を防止するなど、難しい課題を達成してきたことが分かりました。多重防護は地形の問題等がありますので、当市においては工夫が求められます。アプリの活用は有効と思われ、当市でも検討する必要があります。

◎調 査 地:福島県南相馬市

◎市 概 要: 相馬野馬追で有名な歴史文化都市 世界大会も開かれるサーフィンの聖地
面積 398 km²、人口 55,069 人

- ・第4回日本子育て支援大賞 2023 (自治体部門) 受賞
- ・2025 住みたい田舎ベストランキング東北エリア 子育て世代部門第1位
- ・給食費無料化、保育料無料化、医療費無料化 (18歳まで)

◎調 査 事 項 : 南相馬市こども・子育て応援施策について

「小高交流センター」 「NIKOパーク (子どもの遊び場)」現地視察

◎視 察 日 程: 令和7年11月20日午前10時～12時

◎説明担当者と施設概要

- ・復興拠点交流施設「小高交流センター」 : 地域振興課 木幡氏
- ・多世代による地域内外の交流拡大や地域活性化、にぎわい創出、地域コミュニティの再構築など、復興・再生を目的に市が整備をした施設 (事業費約17億円100%交付金) 多世代交流施設和室 (6畳×2間、8畳×2間) 子育てサロン、小高マルシェほか、多くの施設 (運営費6,600万円/年 延床面積: 1,495.99 m²) 会計年度任用職員
- ・「NIKOパーク (子どもの遊び場)」: 事業費約6億円 (内遊具は5,000万円) R3年4月南相馬市こども未来部 こども家庭課 こども企画係整備推進係長 渡部氏
- ・ネット遊具 (約2,000万円) やボルダリング、エアー遊具 (500万円) といったダイナミックに身体を動かして遊べるエリアにクッションブロックやおままごとセット、乳幼児が安全に遊べるよちよちエリアがある。指定管理 (フクシエンタープライズ) で運営。
- ・事業費財源: 国・県 (復興、福島再生等) 交付金約5億4,000万円、市基金約3,000万円

◎南相馬市「こども・子育て応援施策事業」の概要

【背景・契機】

「東日本大震災」(H23年=2011年)

出生数 : 2010年 579人⇒2024年 245人 (⇒2040年 190人)

人口減少: 2010年 70878人⇒2020年 56985人

↓

みらいづくり1.8プロジェクト (少子化緊急対策) 「出生率1.8実現」を目指す

「南相馬市こども・子育て応援条例」の制定 (令和4年4月1日施行)

【目的・目標】

- ・地域社会全体で子ども・子育てを応援⇒こどもたちの笑顔かがやくまち実現を目指す
- ・「南相馬市こども計画」(令和7年3月31日策定)

◎総括

【小高交流センター】

- ・小高交流センターには、人工芝の屋内遊び場「あそびばラシクル (多世代交流施設)」やエクササイズエリア、トレーニングエリア、バンド練習、カラオケ利用に防音の多目的室、0歳児から3歳児向けの赤ちゃんエリアの子育てサロンなど、多世代による地域内外の交流拡大や地

域活性化、にぎわい創出、地域コミュニティの再構築など、復興・再生を目的に市が整備をした施設。多世代の交流に充実した施設が完備され、低料金で利用でき、更に減免も設定されている。

- ・当日は平日にも関わらず多くの方で賑わっていた。
- ・現在は市の直営で会計年度任用職員が担っているが、指定管理も考えている。
- ・震災の復興資金 100%による事業資金であるが、区役所に隣接し、食事・カフェ・農産物直売所もあり、賑わい、交流に貢献していて施設整備に参考となる設計である。

【子どもの遊び場 [NIKOパーク]】

- ・ A棟とB棟があり、B棟は旧保育園を改装した施設。A棟が動ならB棟は静の施設。スタッフは「プレイリーダー」と呼び、子どもと一緒にプレイし、見守りや提案等をする。利用料は無料で、1,000 m²の遊び場に人気遊具が整備、遊具目当てに市外からも利用者が多い。B棟は飲食可能な交流施設や木の広場などで子どもたちが落ち着いて遊べる。静と動の空間が必要で、遊び場の遊具が子どもたちや保護者を引きつける要素であり、箱より魅力ある遊具の選定・整備とスタッフの役割（ソフト面）が重要と思った。
- ・ 子どもの数が少なくなった現状を危機と捉え、市民との意見交換やアンケート調査等を行い、しっかり分析、検討し、アプローチから計画、条例の制定と明確に目標を定め、子ども・子育て応援を宣言し、実践してきた結果、日本子育て支援大賞、子育て世代が住みたいまち東北エリア子育て世代部門第1位、同総合部門第1位、同若者世代・単身者部門第2位など数々の受賞に輝き、取組の成果が出始めている。
- ・ 南相馬市の取組は、震災復興からの国等交付金が潤沢にあったとはいえ、改めて現状の認識、分析、検討、目標、計画といったアプローチの段階からの市民とのソフト面での取組の重要性を考えた視察であった。